# はじめに

本報告書では千葉大学大学院人文公共学府後期課程研究プロジェクト 「 外国につながる人々の社会参加と言語管理」(2022年)の１年の成果をまとめた．これまで刊行されてきた「接触場面の言語管理研究」のシリーズとしては18冊目にあたる．今年度は，論文が６本，研究ノートが１本となる．

新型コロナウィルス感染症の世界的な流行は２年継続し，現在もまだ収束していない．そのため，対面やフィールドでの調査が制限され，特に場面を重視してきた接触場面と言語管理の研究には痛手であったと言える．後期課程に在学する３名が中心となった本プロジェクトでは，そうした中でも幾ばくかの前進が見られるように思う．まず玄論文では，多言語話者である中国朝鮮族の日本語学習者のスピーチスタイル選択について，彼らの言語背景を朝鮮語優勢なグループと中国語優勢なグループとに分けて，日本語での会話においてどのような傾向の違いが現れるかを明らかにしている．多言語話者の言語的背景を考慮し，その分類基準の作成を試みた点で新しい視点を提供していると言える．次の龔論文と高橋論文は，それぞれ医療場面とベンチャー企業の職場場面を扱っており，より現実的な場面のインターアクションが対象とされている．龔論文では，「看護記録」を対象にしながら中国人看護師一名とその指導担当者（プリセプター）による記述の管理を分析し，その時間的な管理の変化と相互の影響関係を明らかにしている．また，高橋論文では日本人の内的場面の３つの職場場面における「からかい」の相互行為分析を行い，場面の特徴が「からかい」の質に大きく影響していることを明らかにした．湯論文は博士前期課程修士論文からその成果をまとめたものである．湯は中国東北部の中国語による内的場面の知り合い同士の自然な出会い（立ち話）において，会話がどのように終結するかを扱い，そのバリエーションを記述している．孫(博士後期課程修了)研究ノートでは，高校進学を目標とする外国の背景をもつ生徒のための地域日本語教室場面の１名の事例を取り上げている．生徒と先生およびクラスメートの自己の位置づけの相違をポジショニング理論をもとに後付け，生徒の個性を尊重するための制度的環境の改善を提言している．

本プロジェクトに参加する教員では村岡論文と高他の論文を掲載した．村岡論文ではビデオ会話を対象に，自己呈示の管理の分析から，参加者によって構築された雑談の順番交替の規範がビデオ会話の制約との不一致を起こしていることを指摘した．また，高他論文では韓国済州の結婚移民女性の事例からリテラシー問題を韓国の社会統合政策と重ねて論じ，彼女たちの社会参加の支援の問題を浮き彫りにすることで，日本での外国人支援の課題を示唆している．

報告書の最後には2021年4月から2022年3月までの 「 言語管理研究会 」 の活動報告を載せた．言語管理研究会はもともと千葉大学大学院社会文化科学科の研究プロジェクトの一

環として発足したが,その後,研究会として独立した学術活動を行っている．当プロジェクトのメンバーも,プロジェクトの重要な活動の一部として研究会の運営に参加している．

さまざまな立場の方々との学際的な協力関係が望まれる．皆様のご指導を仰ぐ次第である．

なお，本研究プロジェクト報告書からの部分的な引用に関しては，すでに著者の了解が得られています．

2022年2月28日

研究プロジェクト代表　村岡英裕